

教育実習を通して、私は自分に足りていないものが非常に多くあると感じました。私は春学期に行われていた教育実習事前指導や数学科教育法で模擬授業を経験しており、改善点もありましたが、それと同等に褒められるところも多くありました。また、個別塾で教えているということもあり、授業に対する自信は少なからずありました。しかし、実際に現場に立って41人に教えるとなると全く話が違い、授業スピードや声の抑揚、板書などでたくさんの指摘をいただきました。板書計画は特に、どのように黒板に書くのが一番生徒にとって見やすいのか、何を消して何を残しておくのかなど、私自身あまり考えたことがなかったので非常に苦労し、何度も放課後板書練習を行いました。研究授業を見に来てくださった先生方の御講評では、たくさんのありがたいお言葉をいただきました。指導案の「目標」は生徒への「ねがい」である。「黒板に板書しているときは生徒のことを見れていないと思え」など、いかに先生方が考えて授業をしているのかを知ることが出来ました。

また、授業以外の面でも自分の未熟さを知りました。私は実習中に文化祭を経験しました。それに伴って、事前に文化祭のマニュアルをいただいたのですが、校務分掌による自分の役割しか頭に入っておらず、別の担当の生徒に質問された際にすぐ答えることが出来ませんでした。しかし、先生方はすべて頭に入っているのか、生徒の質問にすぐ答えられていました。それを見て教師の視野の広さを再確認しました。

台風により学校が休校になっても教師は出勤して学校の安全点検を行わなければならないことや、文化祭の準備や修学旅行のマニュアル作り、また、進路説明会の準備など校務分掌の大変さを学ぶことが出来ました。

確かに教師は大変な仕事であり、実習中は何度も辛いと思うことがありましたが、それを払拭するほど生徒と向き合うことの楽しさも知ることが出来ました。放課後、一人の生徒に「微分って何ですか？」と聞かれたときは焦りましたが、自分の答えられる最大限のことを説明すると生徒は納得してくれました。その瞬間は非常にうれしかったです。また、授業が分かりやすいと言われてもらえたり、字がきれいと言われてもらえることも非常にうれしく思いました。3週間という短い間でしたが、少しでも生徒との信頼は築けたのかなと思います。この実習を通して、私は一層教師になりたいと思うようになりました。ともに実習をやり遂げた仲間や担当先生を初め、たくさんのアドバイスをくださった先生方には感謝しています。初めに述べたように、私にはまだまだ足りていない部分があるので、残りの大学生活でそれを補えるように過ごしたいと思います。